

川越町の子どもたちの学力向上に向けて

～全国学力・学習状況調査の結果報告～ その2

令和4年 9月
川越町教育委員会

家庭・地域へのお願い

(1) 家庭学習の習慣を定着させる・・・見守る、声をかける

子どものノートや学習したプリント等にてできるだけ目を通し、「見守り・声かけ」をしていただくようお願いします。家庭学習を継続させるためには、声をかける、頑張りの過程をほめる、励ますことです。子どものやる気を引き出すことも保護者の役割です。

【家庭学習を習慣化するポイント】

《児童・生徒》

- ・毎日、決まった時間に決まった場所で勉強する。
- ・テレビ・スマートフォン等の電源を切って、集中して勉強する。
- ・机の上をかたづけて、良い姿勢で勉強する。

《保護者》

- ・テレビやゲームを楽しむ時間や、スマートフォンを使用する時間、方法などについて、各家庭でルールをつくる。
例) 毎週水曜日は「ノーテレビ・ノーゲームデー」にする。
夜の10時以降は、携帯電話やスマートフォンを使わない。 など
- ・カレンダーに「○」を付けるなど、学習の記録を記すようにし、子どもたちの頑張りを「見える化」し、ほめる。

(2) テレビやゲームを楽しむ時間のルール作りを子どもと一緒に考える・・・思いやりの心につながる

家庭内のルールを子どもたちと一緒に会話をしながら作っていただきたいと思います。家族同士の触れ合いはコミュニケーション能力の向上にもつながります。また、ルールづくりは子どもの自制心・誠実さ・忍耐強さにつながることはもちろんですが、思いやりや共感力を育みます。

(3) ほめる・認める・・・自己肯定感・自己有用感を高める

今回の児童生徒質問紙の結果からも、「15%から20%程度の児童生徒が、じぶんには良い所があると感じられない」という状況がみられました。子ども達は個々によって得意なことや苦手なことは様々です。「家族で決めた約束が守れた」「苦手なことにも挑戦した」など、子どもが何かを継続して行ったときや、前向きに挑戦した、以前よりも進歩や成長が見えたときには、その機会を見逃さず、きちんとほめましょう。成功や失敗、順位や点数等だけに注目するのではなく、過程を大切に、子どもの意思で行動したことを評価することが大切です。

【子どものほめ方のポイント】

- 他の子（友だちやきょうだい）と比べてほめない
- よかったことを具体的にほめる
- 結果（順位や点数等）に注目せず、努力したことをほめる
- その場ですぐほめる

「ほめて伸ばす」ことは、「叱ってはいけない」ことではありません。子どもが「なぜ、叱られたのか」を納得できるような叱り方をして、目指すべき良き行動がとれるように導いていきましょう。

(4) 親子で読み聞かせや読書をする機会を大切にすゝ家庭読書習慣

読書活動は、使う言葉の幅が広がり表現力が向上し、より豊かな会話につながります。いろいろな考え方に接したり、想像力を膨らませたりすることにより、共感力や発想力が生まれます。「語彙（ごい）の量と質」の違いが学力差に大きく影響しているとの指摘があります。まずは、おうちの方からの読み聞かせや、テレビの時間を読書の時間に変えることから始めましょう。

